
心と絆

灰岸猫丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心と絆

【Nコード】

N2453T

【作者名】

灰岸猫丸

【あらすじ】

世間から迫害されてきた兄妹が家を追い出され、見知らぬ環境で生きていく。

新しい家

玖桜風間「へくおうかざま」は生まれつき体内の色素が崩壊していた。そのため肌はゆきのように白く、瞳は夕日のごとく真紅に染まり。髪の色は銀一色だった。

「麻奈美、今日からここが俺達の家になるそうだ」

大きすぎず小さすぎない教会を見上げ、横にちょこんと立つ妹に声をかける。

「・・・そう」

虚ろで空虚の瞳がこちらに向き、なんの感情も持たない返事をした。

妹がこうなってしまうのも当然といえた。色素が崩壊した兄妹など不気味なだけだ、父と母、両親に毛嫌いされ、周りからは迫害される毎日。

そんな生活で、何年も過ごせば感情など消え去る。

俺が耐えれた理由は1つ、妹である麻奈美を守りたかったからだ・

・おかげで家から追い出されたけど、後悔はしていない。

「行くぞ」

「・・・」

麻奈美の手をきゅっと握り締める。勇気を出すために。

壁に取り付けられたチャイムを鳴らすと、すぐ小さい女の子が出てきた。

「こ、こんにちわ」

「こんにちわ」

挨拶は大事だ、気持ちが楽になる・・・相手が挨拶してくれた場合のみだが・・・

軽く落ち込んで、地面にしゃがみこんでいると。

「ど、どうぞ」

いい子だ。素直にそう思う、むしろ俺に挨拶してくれた人が今ま

で何人いたことか。

女の子に従い、奥に進むと1人のシスター姿の女性が待っていた。

「ようこそ、あなた達が玖桜兄妹ね。写真で見たことあるけど、風間くんが14歳で麻奈美ちゃんが10歳であつてる？」

につこりと微笑み、歳と名前を確認してきた。

「ええ、合ってます」

「・・・」

終始無言の麻奈美を見つめ、いきなり猫だましをかました。

・・・麻奈美はぱちくりと瞬きを繰り返した後、急に立ち上がり玄関に向かって猛烈に走り始めた。

「ちよっ!？ 何してんですかあなた！」

「大丈夫よ、ちよっとしたお茶目だから」

シスターの言葉を無視して麻奈美を追いかけると、ドアの前で先程の女の子に捕獲されていた。

必死に逃れようと麻奈美は暴れているのだが、一向に抱きついた女の子を振りほどけていないようだ。

「・・・なにしてんの？」

この光景は意味がわからない。そもそも女の子は最初から玄関に配置されていたが、逃げる事が分かっていたのだろうか？

「すみません、院長が何かしたのですね」

心底すまなそうに謝る女の子・・・さっきまではおとなしい子だったのだが、考えを改めるべきだな。

手足をバタバタさせ、暴れまくる麻奈美を後ろから抱きつき完全に押さえ込んでいる姿を見て、そう思う風間だった。

「ふふふ、逃げられないわよ？ だって私が育ててる子供だもの」

嬉しそうに笑うシスターの顔面に拳をめり込ませたくなったが、幼い子達にそんなショッキングな光景を見せるわけにはいかないと、必死に我慢する。

ただ、容姿のことに一切触れてこないことに感謝もしていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2453t/>

心と絆

2011年10月9日02時46分発行